

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2373800651
法人名	社会福祉法人 成詳福祉会
事業所名	グループホーム岩崎あいの郷
訪問調査日	平成 20 年 9 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 28 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2373800651
法人名	社会福祉法人 成詳福祉会
事業所名	グループホーム岩崎あいの郷
所在地	愛知県小牧市岩崎原3-292 (電話)0568-75-3582

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年11月28日

## 【情報提供票より】(20年 9 月 1 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.4 人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,480 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	380 円
	夕食	370 円	おやつ	50 円
	または1日当たり	1,000 円		

## (4)利用者の概要( 9 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	67 歳	最高	88 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	小牧市民病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人の中にある1ユニットのグループホームである。ユニットケアを実践している特別養護老人ホームともフロアが繋がっているため、自由に建物の中を行き来することができる。施設内にある居酒屋は職員が順番に店主になり、入居者や家族などが利用することができる。グループホームの入居者も常連さんになっており、毎回楽しみにしている。晩酌をする人やチラシを見てスーパーに買物に行ったりと、その人らしい当たり前の生活の継続に努めている。家庭的でそれぞれの役割ができており、積極的に入居者が動いている。近所との関わりも良好で散歩の時にはお互いが挨拶して、夏祭り等にも参加して楽しみな行事となっている。職員の研修には積極的にスキルアップのためには会社が全面的にバックアップしている。研修のお知らせを職員にメールで伝えるという方法をとり、全職員で共有している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を参考にユニットごとに会議や勉強会を持ち、評価に対する反省や改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各職員に配り、それぞれ記入してもらいそれを管理者がまとめている。評価に対する話し合いも行い、職員は常に改善に対する意識を持っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の出席者は、市役所長寿介護課課長、地域包括支援センター管理者、地域住民代表、家族等である。内容は事業報告や認知症についてなど話し合っている。その他に要望や助言なども聞かせてもらい、それらは職員と共有し、改善したり取り入れたりしてサービスの向上を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を設けて家族同士の場で意見や要望を出してもらえるよう努めている。サービスに関する意見や要望は積極的に聞き取り、運営に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日々の散歩のときには近所の人とお互いに挨拶を交わしたり、食材を買いに行くスーパーで顔みしりになるなど、なじみの関係が出来ている。津島神社の夏祭りにも毎年参加しており、年々あいの郷からの参加者が増えて来ている現状である。コーラスやアニマルセラピーなどのボランティアの受け入れに積極的に努めて、地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	もうひとつの家族を目指して「共に暮らし共に生きる」ことを大切に、入居者が自立した日常生活を営むことを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週土曜日にカンファレンスを行い理念の確認と意識付けをし、共有化を図っている。理念を見やすい所に掲示して常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	津島神社の夏祭りに参加したり、日々の散歩の時にはお互いに挨拶を交わす馴染みの関係が出来ている。法人全体としてコーラスやアニマルセラピーなどのボランティアの受け入れに積極的に努めて、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年自主的に自己評価を行なっている。各職員に配り、各々に記入してもらい管理者がまとめている。評価結果をミーティングで報告し、全員で共有しケアの質の向上を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2～3回運営推進会議を行なっている。役所関係者や地域住民も参加して行なわれている。内容は事業報告や要望などを報告したり聞いたりしている。入居者の散歩のことで、助言をいただき、早急に話し合い対策を行なった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から地域包括支援センター設置の委託を受けているので書類提出に行ったり、市からホームに来てもらい情報の交換をしている。介護相談員が年に1～2回訪問してきて、入居者の相談相手となっている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は毎日来る人や月1回～2ヶ月に1回の人もある。ホームでの暮らしぶりは来訪時に報告したり定期的に便りを送っている。状態の変化はその都度電話連絡をしている。	○	今後は入居者が書いた季節ごとの絵はがきを送ることを計画しているとのこと。是非実現されることを望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時などに良好な関係づくりをすることで、意見を引き出すように努めている。又、家族会を設けて家族同士の場で意見や要望を出せるような雰囲気づくりをしている。家族から出された意見は会議で話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるので、事前に挨拶をしている。新人の職員に対しては、入居者からホーム内のことを教えてもらうような雰囲気づくりをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は職員それぞれにメールで知らせている。又、看護師による勉強会が月2回行われている。外部の研修も会社が認めた場合は勤務扱いで、費用も会社負担となっている。研修報告書や冊子は閲覧できるように全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会の会員になっており、研修には職員が順番に出席している。そこで意見交換や情報交換を行ないサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学に見え納得のいく入居となっている。入居後は安心して生活出来き他の入居者と馴染めるまで職員がサポートしている。また管理者はホームの通所介護の利用をして馴染めるようになってから入所となるようにしたいとの思いがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に過す中で調理の仕方や昔の風習など教えてもらったり、時には感謝したり、励ましてもらうなど支え合う関係はできている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でちょっとした要望でも丁寧に耳を傾けている。また、毎日ケアプラン評価をしており、入居者の思いや意向を把握し易くしている。他に家族に相談などして思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース記入一覧表があり職員が毎日入力している。その中には気付きや食事摂取量など入居者の24時間が分かるようになっている。それを下に家族や医師に意見や要望を聞き、それから、ケース会議を開き入居者の現状に即した介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎の更新となっているが、状態変化が見られる場合随時、家族や医師に相談してケース会議を開き内容を見直ししている。また、月1回モニタリングを行い職員が入居者の現状把握をしている。	○	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護の指定を受け現在2名受け入れしている。家族が宿泊出来る様寝具の用意がある、また、併設の居酒屋や喫茶店にも出向き楽しいひと時を過ごす時もある。入居者の希望でマッサージ師が定期的に訪問したり、行き付けの美容院に出張でお願いしたり、入居者の希望を優先して柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に納得してもらい、主治医をかかりつけ医としている。かかりつけ医は2ヶ所あり月2回の往診がある。協力医と主治医と連携はとれており、入居者が安心して生活できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族には医療行為が必要になった場合治療優先となり、グループホームでの生活が困難な場合他の施設の検討をお願いする説明はしている。しかし、重度化や終末期に向けた方針の具体的な物はできていない。	○	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の取り扱いについては、入居時に家族には説明して同意を得ている。職員の入居者に対する対応はやさしく丁寧である。また、個人の書類も見えないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活パターンは概ねできている。毎朝お経のお勤めを行う人や新聞や本を読むのが好きな人など、職員は入居者の気持ちを大切に思いその人のペースに合う支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーのチラシを見て買い物へ行き食材選びをしたり、メニューを考えたりしている。調理も入居者が自然に台所に立ち職員と一緒にやっている。食事は職員も同じものを食べて楽しい雰囲気で大家族が食事しているようである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は通所介護は午前中の中の入浴としているが、入居者の人は本人の希望の時間となっている。だいたい夕方前が多いが2回入る人がたまにある。入浴拒否の人には声をかけるタイミングを見計らい声をかけたりして工夫しているが無理時はしない。しかし週3回は最低でも入浴してもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きな本を自分で選んで買ったり、次に作る食材を考えたり、掃除したり、散歩に出かける、など自由に個々に役割や楽しみごとや気晴らしが入居してから増えており、職員は日々入居者が楽しく、安心して生活できることの把握に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や買い物、喫茶店にでかけている。外食は月1回ほどあり回転すしなど行っている。また、年2回ちょっと豪華食事を楽しんでいる。今年は家族会で日帰り旅行を予定している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。入居者は自由に散歩に出かけているが、職員は見守り安全確認はしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、4月、9月に避難訓練を併設他の施設と合同で行っている。先回は消火器の確認などである。夜間想定訓練も毎年行っている。地域との連携は施設全体でとらえておい、近隣の人には理解してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは概ねとれている。食事摂取量も記録に残されて、水分も間食時に十分取れているが体調変化が見られる時には記録に残している。お酒の好きな人には量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節が感じられる花が活けてありリビングは広くゆったりして、所どころに観葉植物が置いてあり家庭的である。入居者が寛げる場所に工夫が見られ居心地良く過している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や家族の写真、馴染みの家具、テレビ、小さい冷蔵庫などおいてあり、入居者が居心地良く過ごすことできている。		